Process360Live

Ver.19

Process Design Architecture 管理者ガイド

「Process360 Live Process Design Ver. 19 Architecture 操作ガイド」©SunPlanningSystems Co., Ltd. All rights reserved.
サン・プラニング・システムズの書面による事前の許可がある場合を除き、本書の一部または全体を複製したり、電送することはできません。
また、記憶装置に保存したり、他言語に翻訳する事も禁止されています。

iGrafx®

2025 年 3 月 Ver.19.5.2
(株)サン・プラニング・システムズ

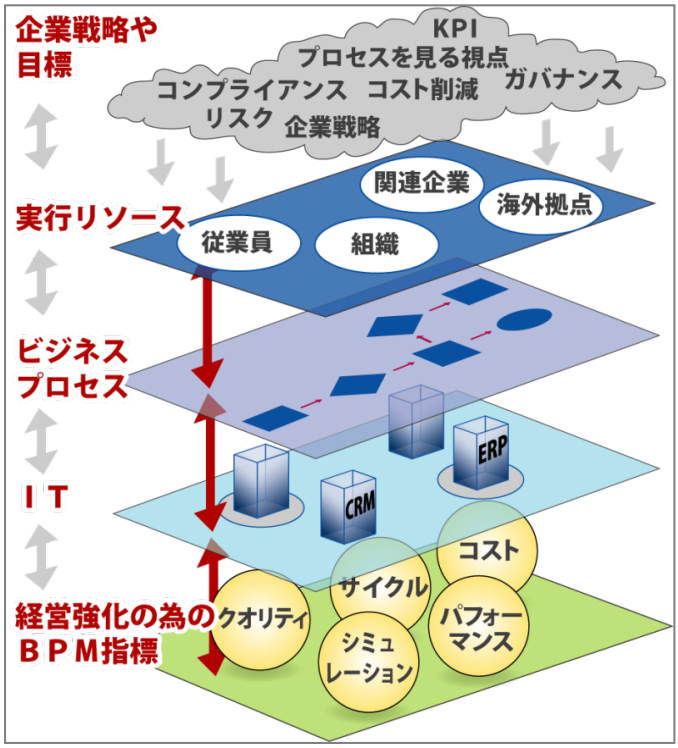
目次

第１章　Process360 Live Process Design Architecture 概要 4
1 Architecture の機能と役割 4
2 企業オブジェクトとは 4
3 企業オブジェクトの種類 5
第２章　オブジェクト設定のカスタマイズ 6
1 設定メニュー 6
2 リソース設定のカスタマイズ 6
2.1 リソースの種類 7
2.2 ユーザーからリソースへのリンク 9
3 リスク設定のカスタマイズ 10
3.1 リスク/リスクインスタンスの種類 10
3.2 リスクカテゴリー 14
3.3 リスクパラメータ 18
3.4 リスクマトリックス 20
4 コントロール設定のカスタマイズ 24
4.1 コントロール/コントロールインスタンスの種類 24
4.2 コントロール評価 27
5 業績評価指標設定のカスタマイズ 29
5.1 業績評価指標の種類 29
6 ジャーニーのカスタマイズ 33
6.1 ジャーニーの種類 33
7 機能のカスタマイズ 36
7.1 機能の種類 36
8 機会のカスタマイズ 38
8.1 機会の種類 38

第１章　　Process360 Live Process Design Architecture 概要

1 Architecture の機能と役割

Architecture では、企業のプロセスとアクティビティ、戦略、要求、リスク、リソース、作業生産物などを表す企業オブジェクトをリポジトリに作成し、データ同士の関連付けを行うことで企業全体のモデリングを行うことができます。



2 企業オブジェクトとは

企業オブジェクトとは、企業のモデリング要素です。

企業オブジェクトには戦略、目標、RACI、リスクとコントロールなどの情報を記述することができ、全員が企業に対する適切な理解を持てるようにします。また企業オブジェクトを業務フローの図形に適用することで、企業のビジネスを視覚的に理解することができます。

3 企業オブジェクトの種類

企業をモデリングするためのオブジェクトを作成します。

オブジェクトに応じて、Web のみでしか作成することができないものがありますので、下記表をご確認ください。

オブジェクトの種類	
戦略	特定の目的を達成するための長期的なアクション計画を記述します。
機能	機能の種類を編集することができます。
製品	販売または加工された物理的および非物理的な製品を登録します。
ビジネスサービス	外部および内部の関係者が利用できるサービスや、サービスレベルを登録します。
プロセス	結果を生み出す一連の操作及びイベント。 他のプロセスやアクティビティで構成されることがあり、ランドスケープ内で整理されます。
ジャーニー	カスタマージャーニーにおける外部及び内部の利害関係者のタッチポイントとその瞬間を表現できます。 ジャーニー・マップは Web Diagram で記述、格納します。
要求	実現を期待されている内容で、主要な企業オブジェクトへの要求となります。 ビジネス、財務、技術、およびその他の種類の要求が含まれる可能性があります。
コントロール	企業に対するコントロールです。 ビジネス構造を定義したり、業務上のふるまいをコントロールしたり、業務上の振るまいに影響を与えたりすることを意図しています。コンプライアンスを制御したり、コンプライアンスの監査を制御するために必要なアクションです。たとえば、マネージャーの承認を必要とする公式なレビューなどです。
リスクカタログ	企業の機能的な成功に対するリスクを識別するために一貫した設定を提供します。
機会カタログ	リスクを取ることの潜在的なプラスの効果を登録します。
作業生産物	プロセス、またはアクティビティの入力または出力となる物理的な商品、情報、またはデータ。
クラス	システムの実装に使用されるプログラミングクラスです。
用語集	企業内で認識共有すべき用語を登録します。
外部要因	企業外の人員を登録します。
リソース	企業の仕事を実行するために使用されます。
インターフェイス	リソースが提供するインターフェイスです。コンピュータシステムなどの物理的なリソースである場合があります。
ダッシュボード	企業の重要なデータが一目で理解できるように整理できる場所です。
レポート	iGrafix でのレポートの表示、作成、変更に関する概要です。
図形ライブラリ	WebDiagram でフローを作成する場合に使用します。

第２章　　オブジェクト設定のカスタマイズ

リソース、リスク、コントロール、業績評価指標、ジャーニー、機能、機会などのエンタープライズオブジェクトにある設定の項目は、カスタマイズすることができます。
（管理者権限が必要になります）

1 設定メニュー

画面左上の リポジトリ からリポジトリメニューを開きリポジトリ設定を開きます。
リソース、リスク、コントロール、業績評価指標、ジャーニー、機能、機会のそれぞれのメニューから設定を変更することができます。

メニュー	説明
リソース	リソースの種類の編集およびユーザーからリソースへのリンクを登録することができます。
リスク	リスクの種類、リスクインスタンスの種類、リスクカテゴリー、リスクパラメータ、リスクマトリックスを編集することができます。
コントロール	コントロールの種類、コントロールインスタンスの種類、コントロール評価を編集することができます。
業績評価指標	業績評価指標の種類を編集することができます。
ジャーニー	ジャーニーの種類を編集することができます。
機能	機能の種類を編集することができます。
機会	機会の種類を編集することができます。

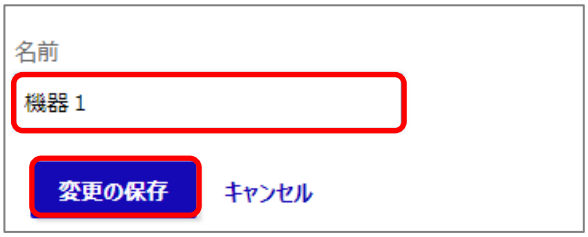
リソース設定のカスタマイズ

1.1 リソースの種類

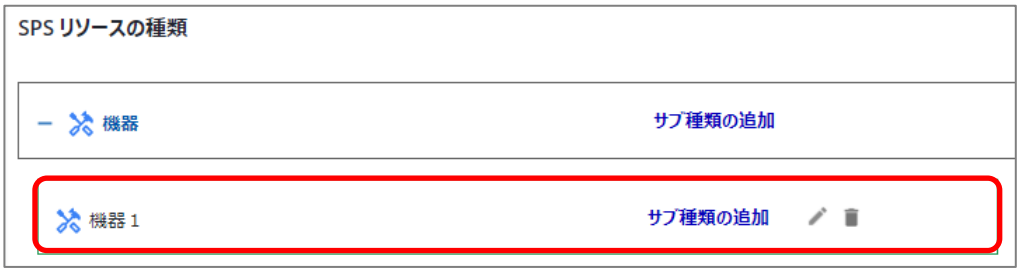
1） 種類の追加

① 「サブ種類の追加」をクリックします。

② 「名前」を入力し「変更の保存」をクリックします。

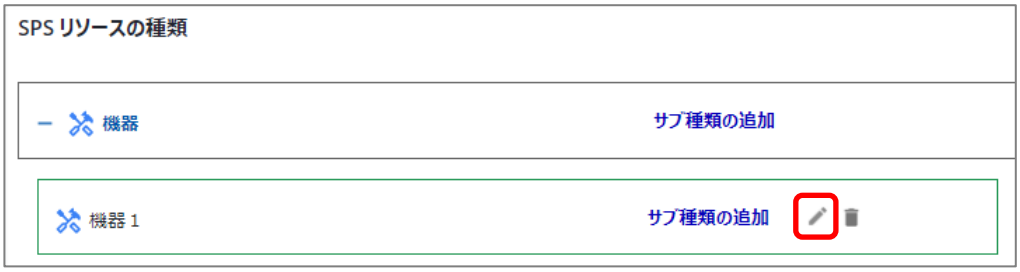


選択した「リソースの種類」のサブ(子)に「サブ種類」が追加されます。

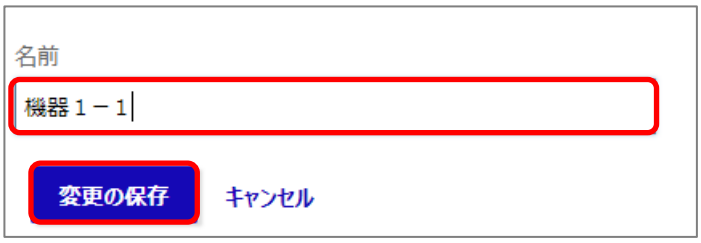


2) 編集

① 「鉛筆」アイコンをクリックします。



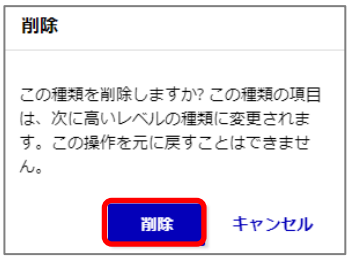
② 「名前」を変更し「変更の保存」をクリックすると変更内容が保存されます。



3) 削除

① 「ゴミ箱」アイコンをクリックします。

削除してよいかメッセージが出力されますので「削除」をクリックすると削除されます。
※削除後に元に戻すことはできませんのでご注意ください。

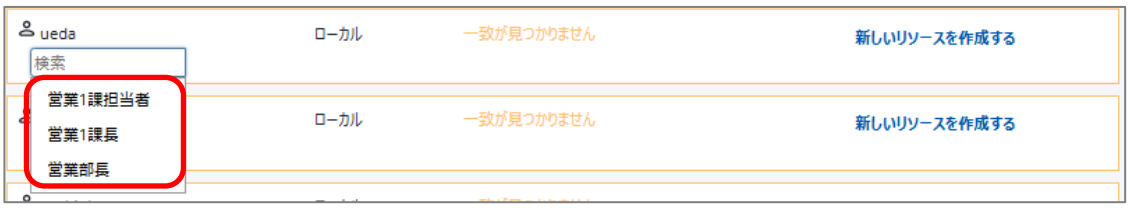


1.2 ユーザーからリソースへのリンク

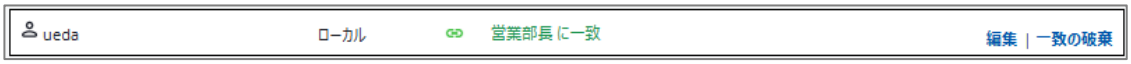
1) リソースのリンク

① 「リソースのリンク」をクリックします。

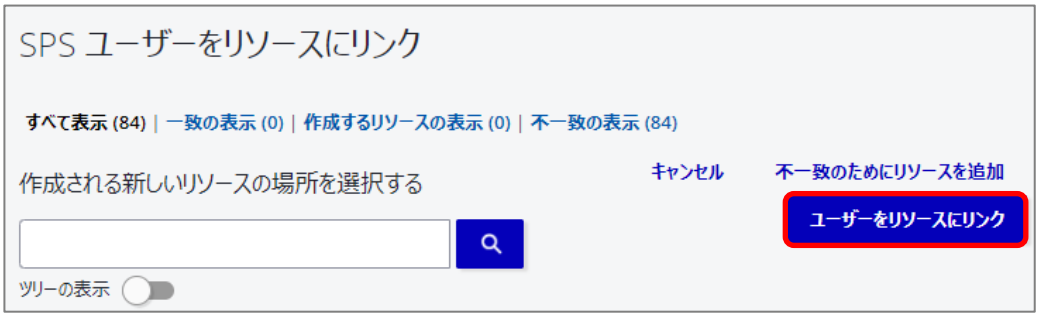
② 該当ユーザーのテキストに、リソースオブジェクトで登録されているリソースから選択します。



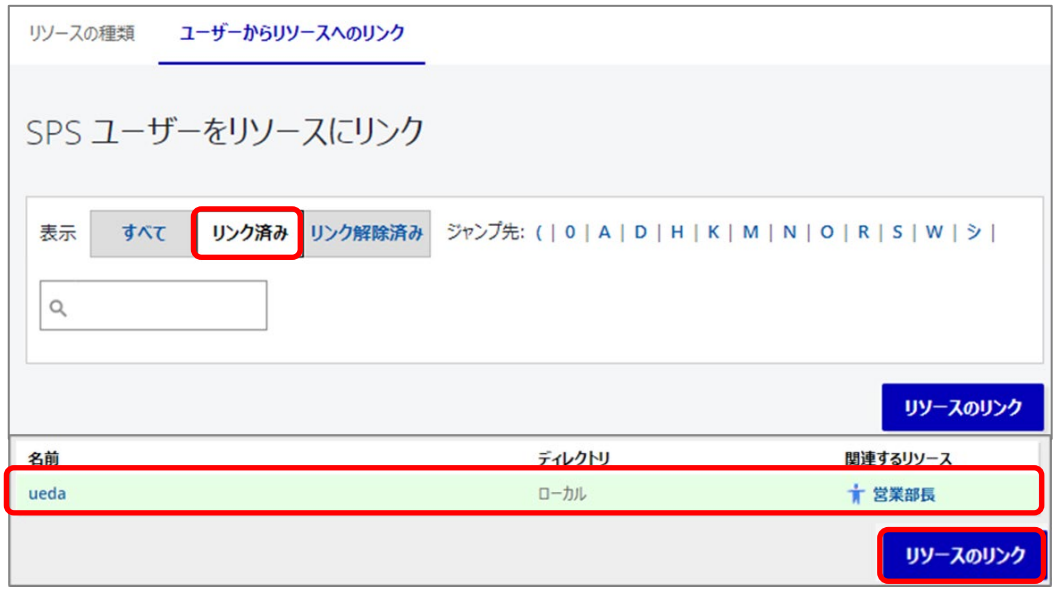
③ 選択したリソースで一覧が更新されます。



④ 「ユーザーをリソースにリンク」をクリックすると、ユーザーがリソースに紐づきます。



⑤　「リンク済」をクリックすると、紐づいているユーザーが確認できます。



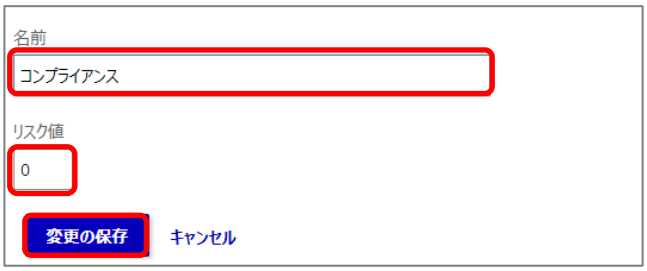
2 リスク設定のカスタマイズ

2.1 リスク/リスクインスタンスの種類

2） 種類の追加

① 「種類の追加」をクリックします。

② 「名前」、「リスク値」を入力し「変更の保存」をクリックします。



「リスクの種類」が追加されます。

1） サブ種類の追加

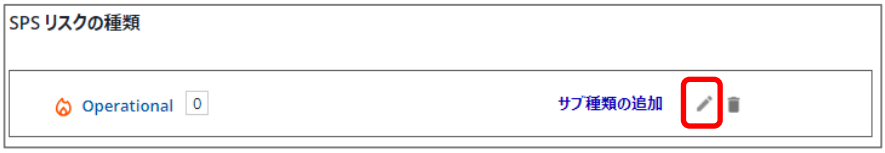
① 「サブ種類の追加」をクリックします。

② 「名前」、「リスク値」を入力し「変更の保存」をクリックします。

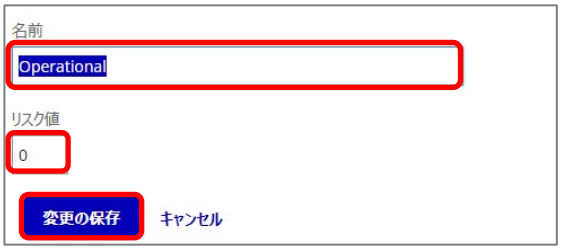
選択した「リスクの種類」のサブ(子)に「サブ種類」が追加されます。

2） 編集

① 「鉛筆」アイコンをクリックします。



② 「名前」、「リスク値」を変更し、「変更の保存」をクリックすると変更内容が保存されます。

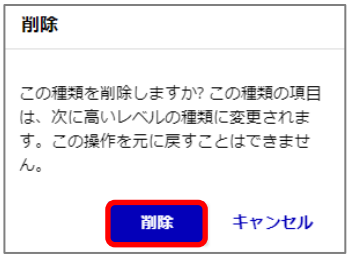


3） 削除

① 「ゴミ箱」アイコンをクリックします。

② 削除してよいかメッセージが出力されますので「削除」をクリックすると削除されます。

※削除後に元に戻すことはできませんのでご注意ください。

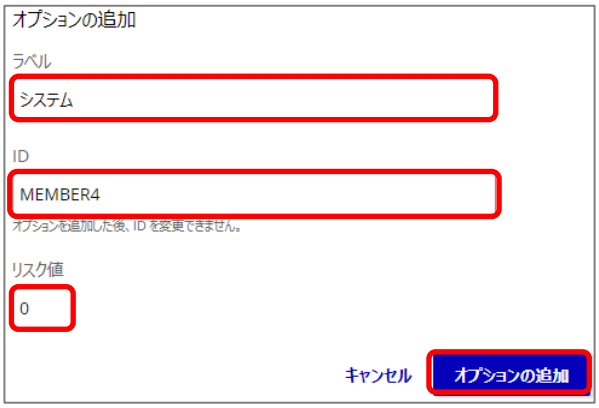


2.2 リスクカテゴリー

1） オプションの追加

① 「オプションの追加」をクリックします。

② 「ラベル」、「ID」、「リスク値」を入力し「オプションの追加」をクリックします。



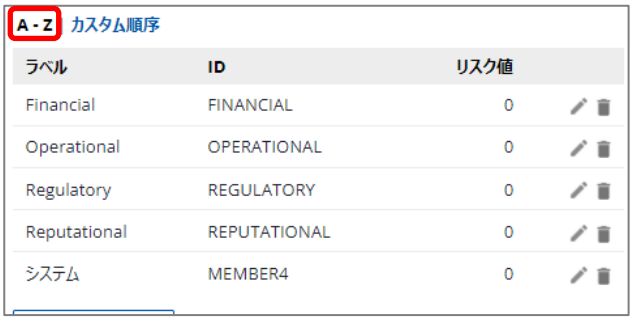
ラベル：リスクカテゴリーの名称

ID：レポートのフィルタ検索時に使用する文字列

「リスクカテゴリー」に新しいカテゴリーが追加されます。

2)　並べ替え

①　「A－Z」をクリックすると自動で「ラベル」を元にアルファベット順に並べ替えます。

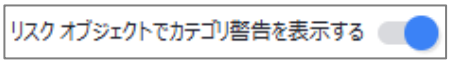


②　「カスタム順序」をクリックし「並べ替え」をクリックし ≡ をドラッグするとお好きな順番に並び替えることができます。

並べ替え後に再度「並べ替え」をクリックすると並べ替えモードが解除されます。

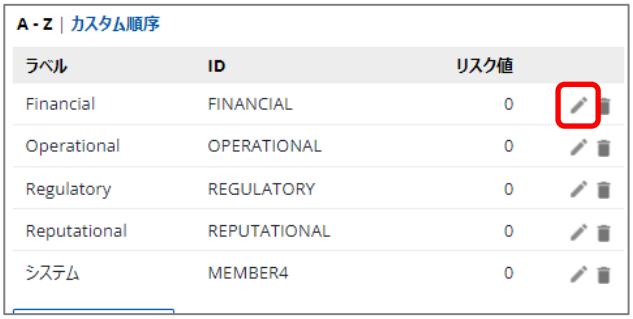
3） カテゴリ警告を表示する

「リスク オブジェクトでカテゴリ警告を表示する」を「ON」にするとリスクとコントロールそれぞれの「リスクカテゴリー」が一致していない場合、リスク オブジェクト上でカテゴリ警告が表示されます。



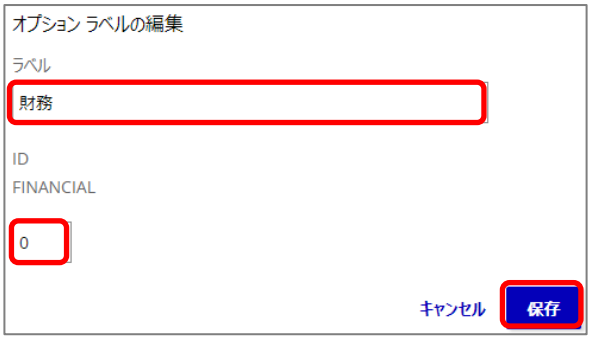
4） 編集

① 「鉛筆」アイコンをクリックします。



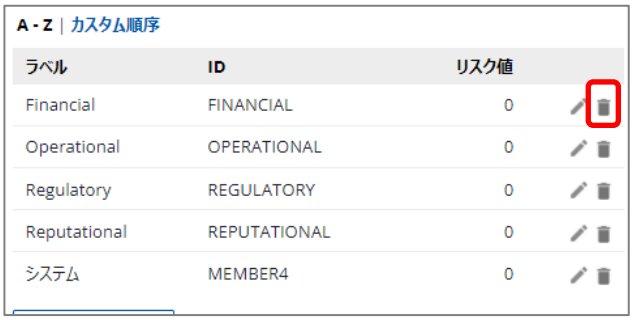
② 「ラベル」、「リスク値」を編集し「保存」をクリックすると変更内容が保存されます。

※「ID」に関しては「オプションの追加」時以外に編集することはできません。



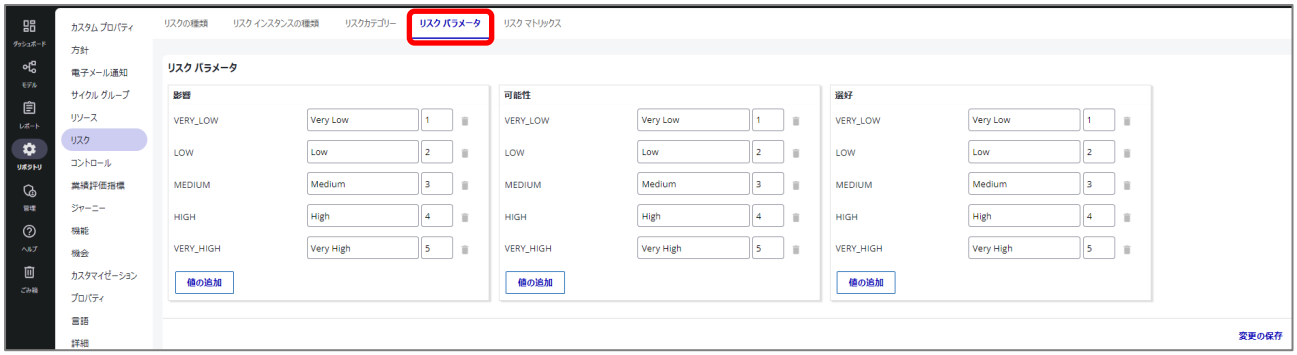
5） 削除

「ゴミ箱」アイコンをクリックすると「リスクカテゴリー」が削除されます。



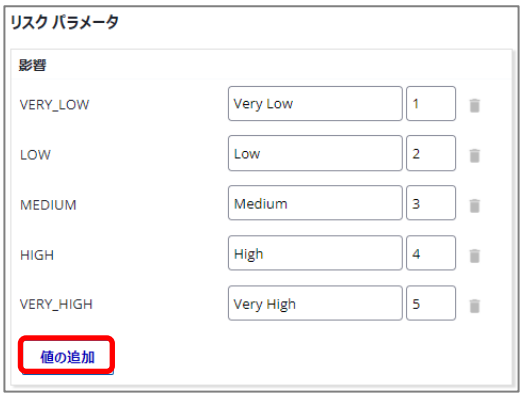
※確認画面が出てきませんので削除する際はご注意ください。

2.3 リスクパラメータ

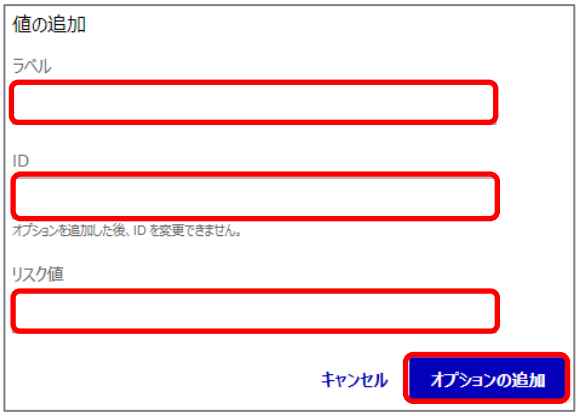


6） 値の追加

① 「値の追加」をクリックします。



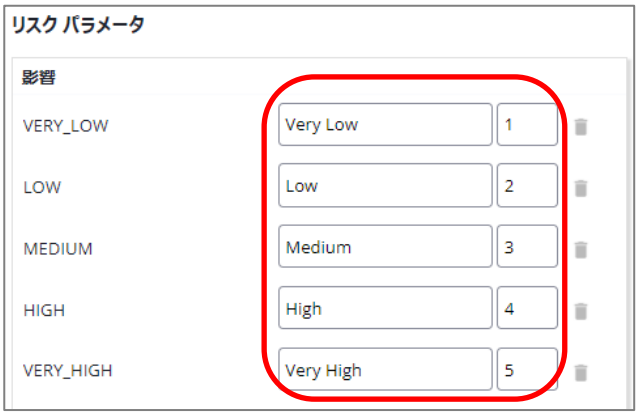
② 「ラベル」、「ID」、「リスク値」を編集し「オプションの追加」をクリックすると新しい「リスクパラメータ」が追加されます。



追加後、画面右下の「変更の保存」をクリックすると変更内容が保存されます。

7） 編集

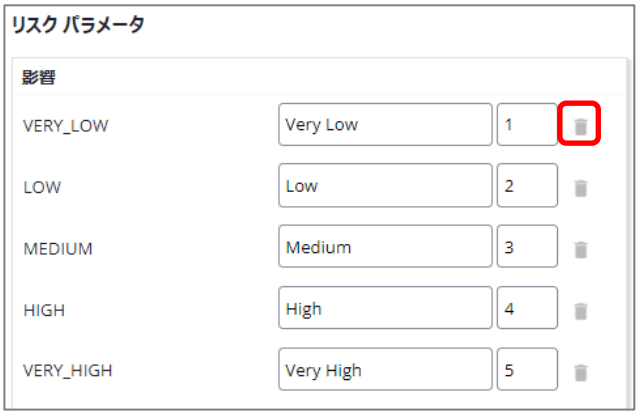
テキストボックスを直接編集することができます。



編集後、画面右下の「変更の保存」をクリックすると変更内容が保存されます。

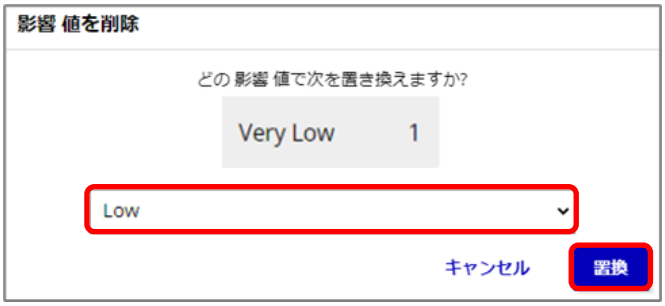
8) 削除

① 「ゴミ箱」アイコンをクリックします。

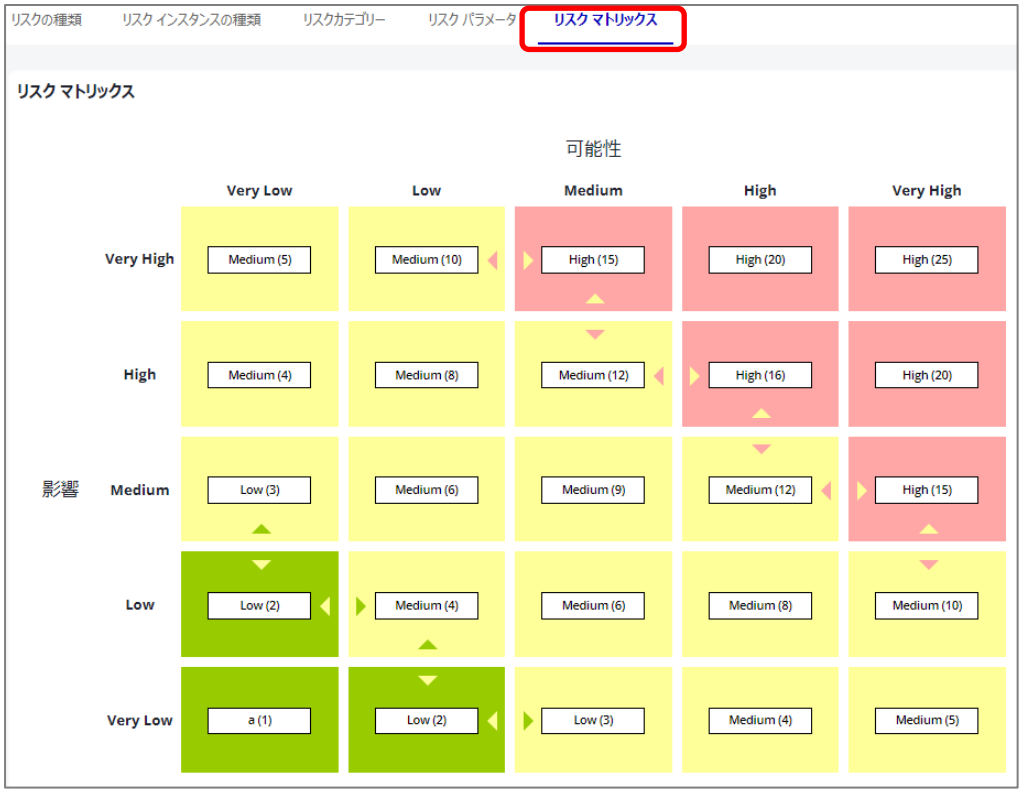


② 削除してよいか確認メッセージが出ますので「削除の確認」をクリックします。

削除しようとしている値が設定されているリスクを、どの値に再設定するか選ぶことができます。

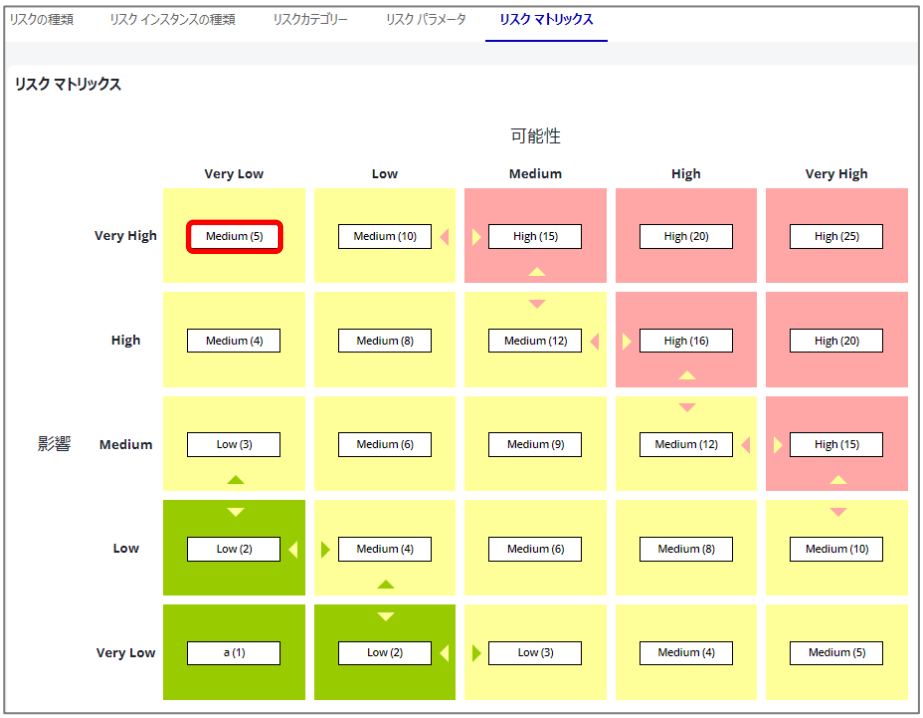


2.4 リスクマトリックス



9） リスクセル名/値の編集

① マトリックスのセルをクリックします。

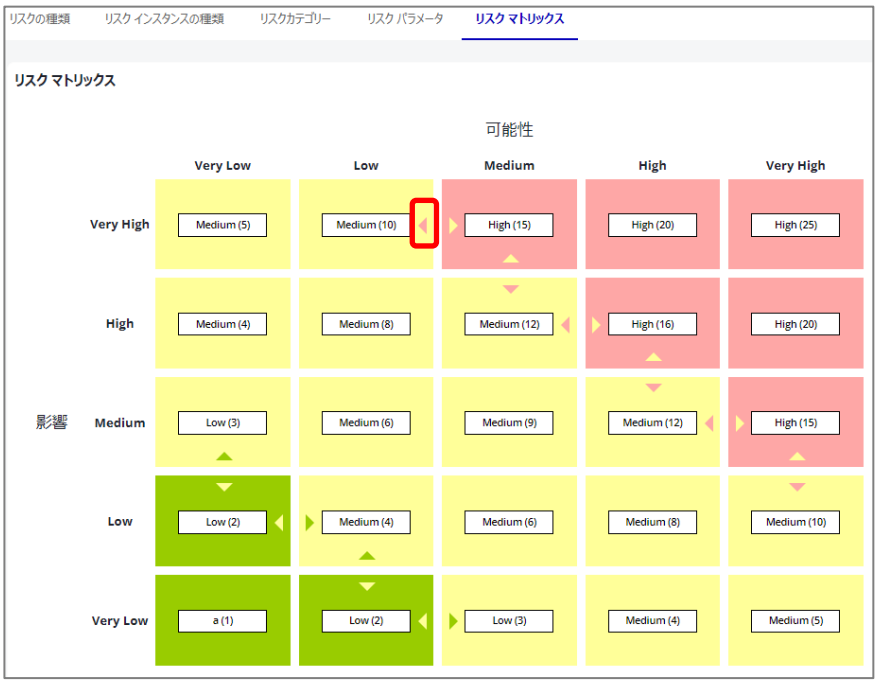


「リスク セル名」、「リスク セルの値」を編集し「保存」をクリックすると変更内容がマトリックスに保存されます。

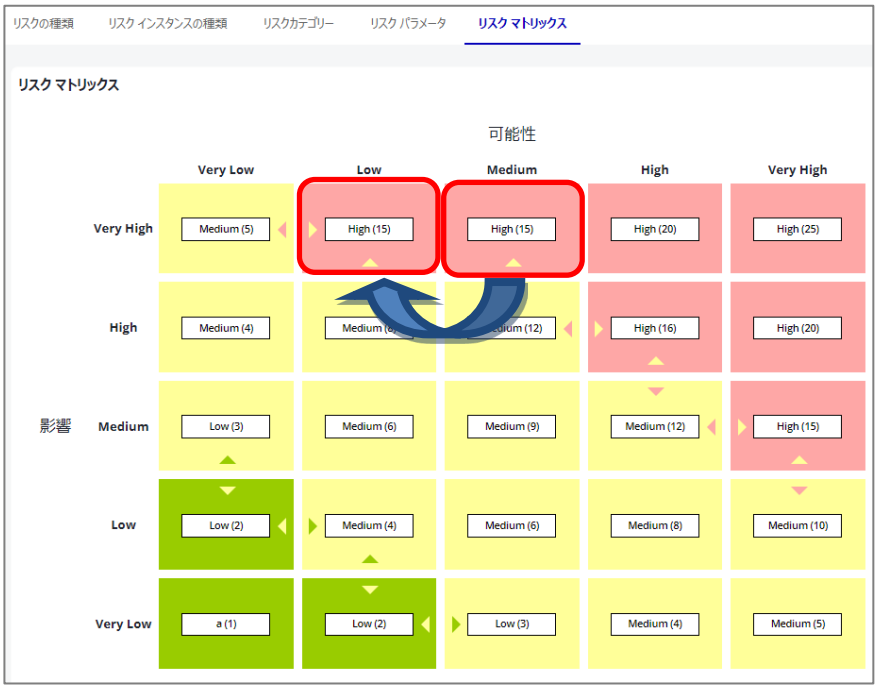
リスク範囲の四角にある をクリックすると三角の向きにセルの名称、値、色をコピーすることができます。

▼例

可能性[低い] × 影響[非常に高い] にある をクリックします。



横にある可能性[中] × 影響 [非常に高い] のセルの内容がコピーされます。

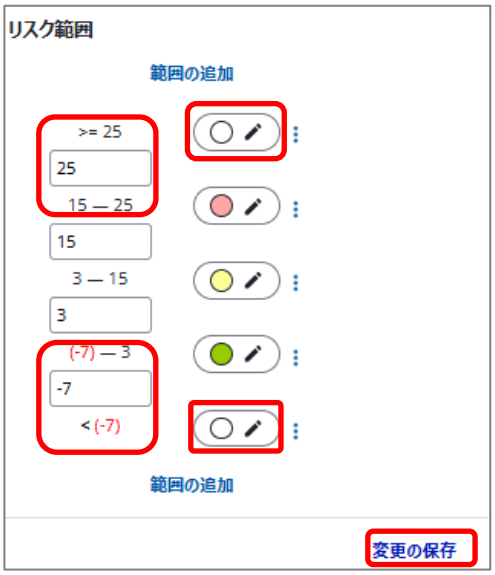


10) リスク範囲の変更

① 「範囲の追加」もしくは ⋮ をクリックしメニューの「XX に追加」をクリックします。

それぞれ指定した箇所に「リスク範囲」を追加することができます。

「変更の保存」をクリックすると変更内容を保存することができます。



「リスク範囲」を狭くしたい場合は ⋮ をクリックし「XX とマージ」をクリックすると選択した方向に「リスク範囲」が吸収されます。
「範囲の分割」をクリックすると選択した「リスク範囲」がコピーされます。
「変更の保存」をクリックすると変更内容を保存することができます。

左側のセルをクリックするとリスク範囲の数値を変更することができます。
「変更の保存」をクリックすると変更内容を保存することができます。

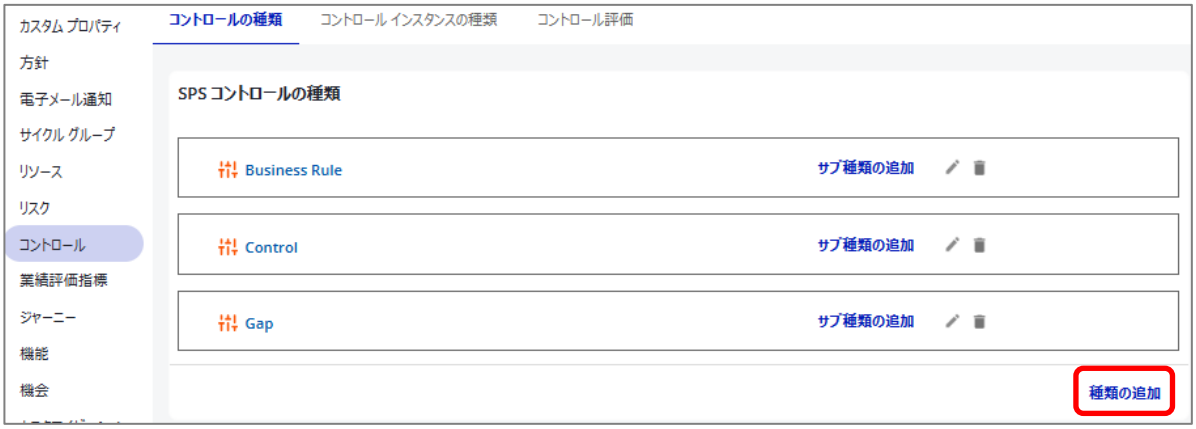
「リスク範囲」の丸をクリックするとパレットが表示されますのでパレット上でお好きな色を選択し「保存」をクリックし「変更の保存」をクリックすると「リスク範囲」の色を変更できます。

3 コントロール設定のカスタマイズ

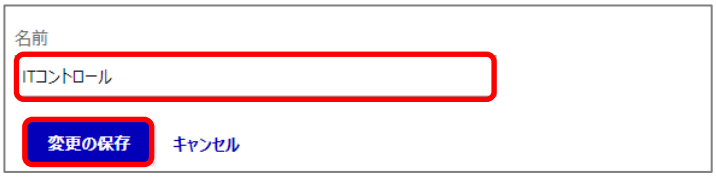
3.1 コントロール/コントロールインスタンスの種類

11）種類の追加

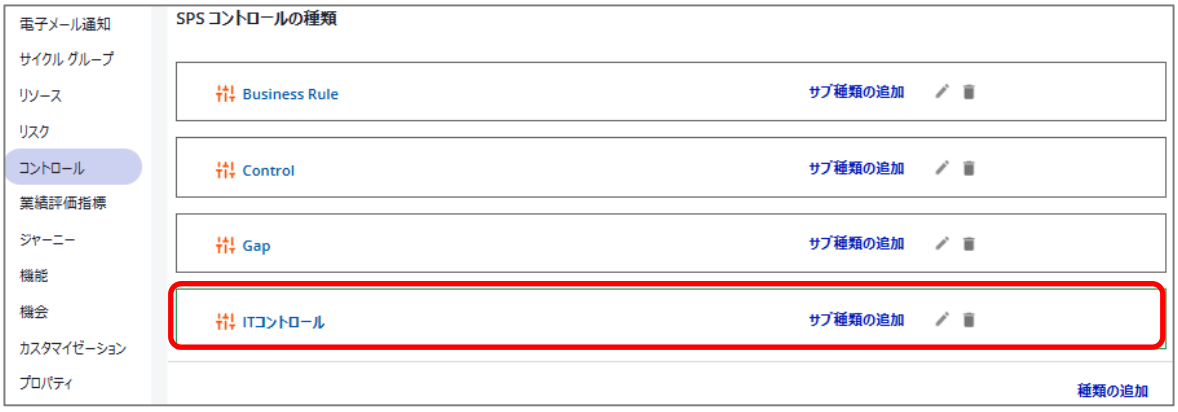
① 「種類の追加」をクリックします。



② 「名前」を入力し「変更の保存」をクリックします。

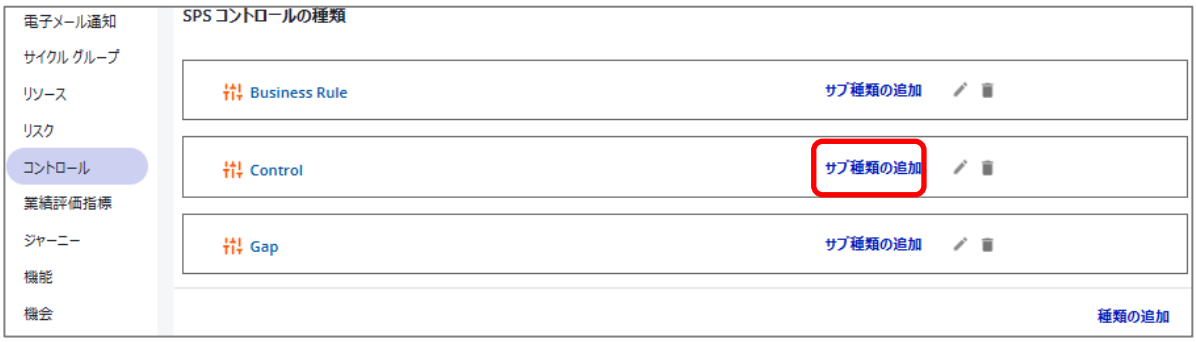


「コントロールの種類」が追加されます。

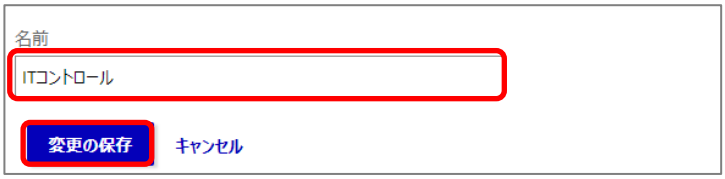


12）サブ種類の追加

① 「サブ種類の追加」をクリックします。



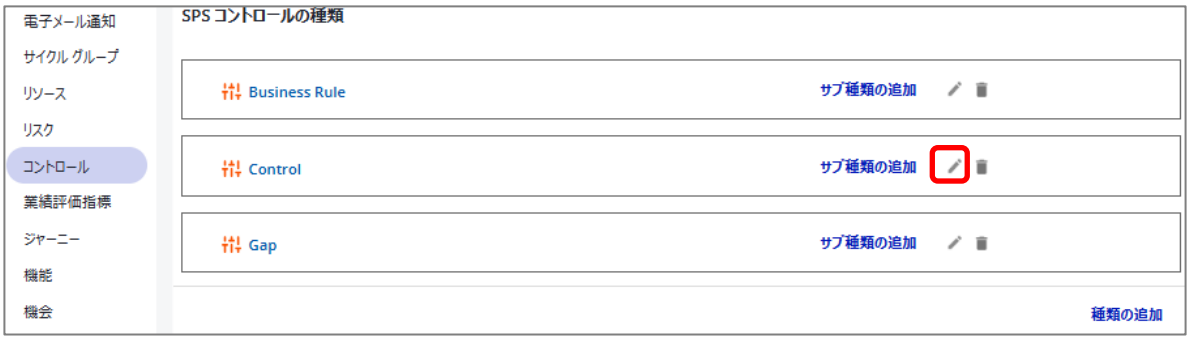
② 「名前」を入力し「変更の保存」をクリックします。



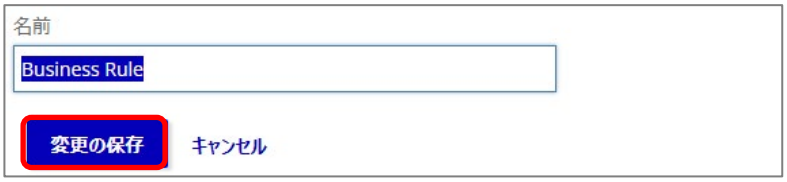
選択した「コントロールの種類」のサブ(子)に「サブ種類」が追加されます。

13) 編集

① 「鉛筆」アイコンをクリックします。

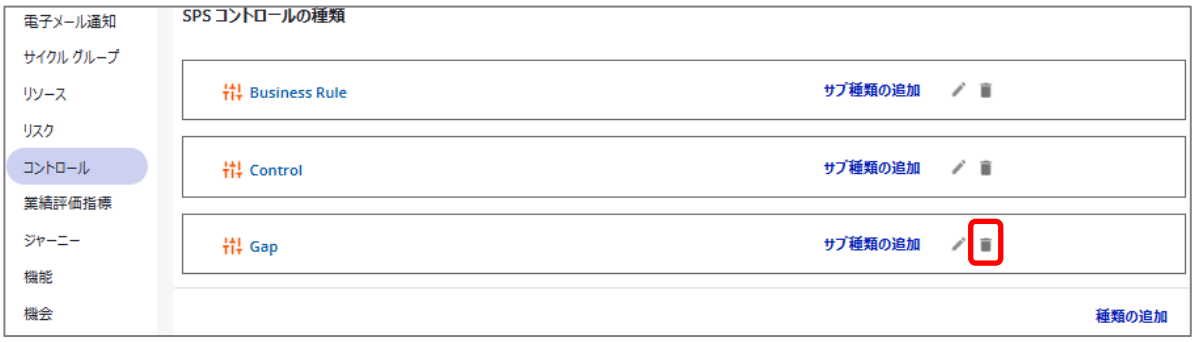


「名前」を変更し「変更の保存」をクリックすると変更内容が保存されます。

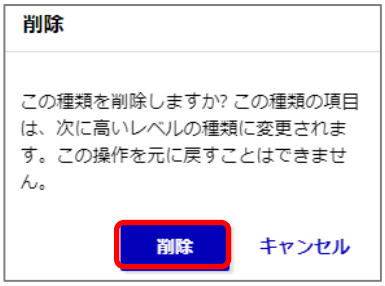


14) 削除

① 「ゴミ箱」アイコンをクリックします。



削除してよいかメッセージが出力されますので「削除」をクリックすると削除されます。
※削除後に元に戻すことはできませんのでご注意ください。



3.2 コントロール評価

1） コントロール評価の追加

「ラベル」、「色」、「値」を入力し「コントロール評価の追加」をクリックするとコントロールの評価を追加することができます。

2） コントロール評価の編集

① 「編集」をクリックします。

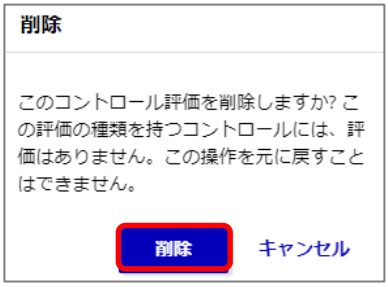
「ラベル」、「色」、「値」を変更し「変更の保存」をクリックすると変更内容が保存されます。

3） 削除

① 「削除」をクリックします。

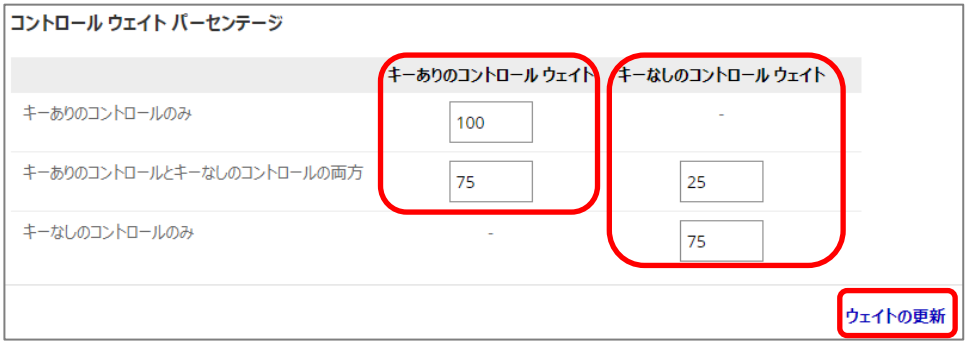
②

削除してよいかメッセージが出力されますので「削除」をクリックすると削除されます。
※削除後に元に戻すことはできませんのでご注意ください。



4） コントロール ウェイトパーセンテージ

「キーありのコントロールウェイト」もしくは「キーなしのコントロールウェイト」を編集し、「ウェイトの更新」をクリックすると編集内容が保存されます。



▼デフォルト設定時のコントロールレベル計算例
「キーありのコントロールのみ」の場合
キーありコントロールの評価の 平均値 × 100% の値が紐付くリスクのリスクレベルから差し引かれます。

「キーありのコントロールとキーなしのコントロールの両方」の場合
キーありコントロールの評価の 平均値 × 75% ＋ キーなしコントロールの評価の 平均値 × 25%
の値が紐付くリスクのリスクレベルから差し引かれます。
「キーなしのコントロールのみ」の場合
キーなしコントロールの評価の 平均値 × 75%の値が紐付くリスクのリスクレベルから差し引かれます。

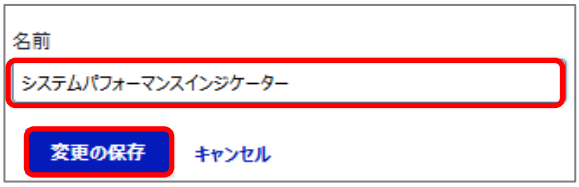
4 業績評価指標設定のカスタマイズ

4.1 業績評価指標の種類

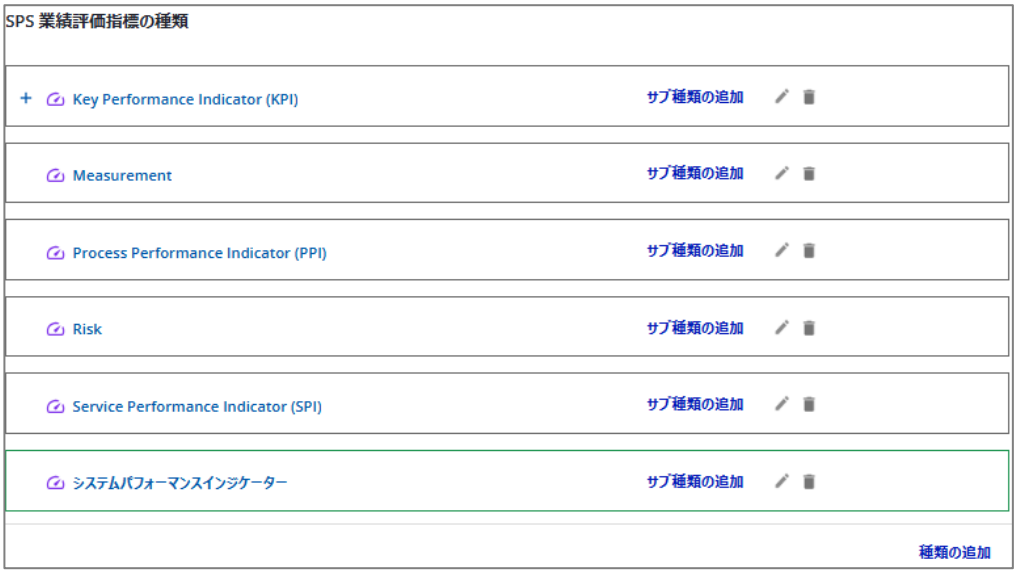
1） 種類の追加

① 「種類の追加」をクリックします。

② 「名前」を入力し「変更の保存」をクリックします。



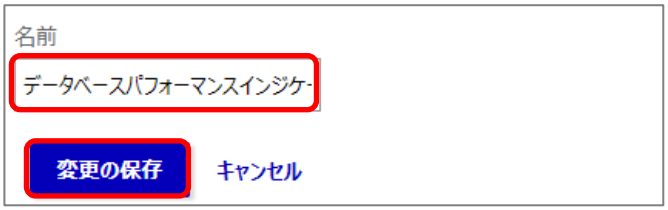
③　「業績評価指標の種類」が追加されます。



2)　サブ種類の追加

①　「サブ種類の追加」をクリックします。

②　「名前」を入力し「変更の保存」をクリックします。

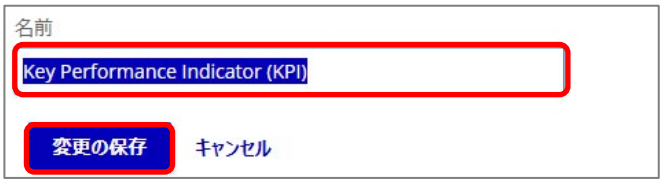


選択した「業績評価指標の種類」のサブ(子)に「サブ種類」が追加されます。

3) 編集

① 「鉛筆」アイコンをクリックします。

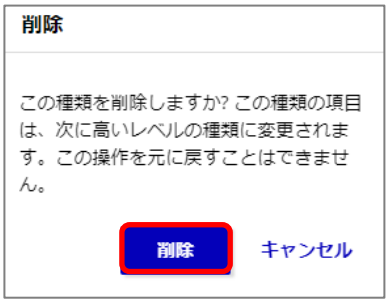
「名前」を変更し「変更の保存」をクリックすると変更内容が保存されます。



4） 削除

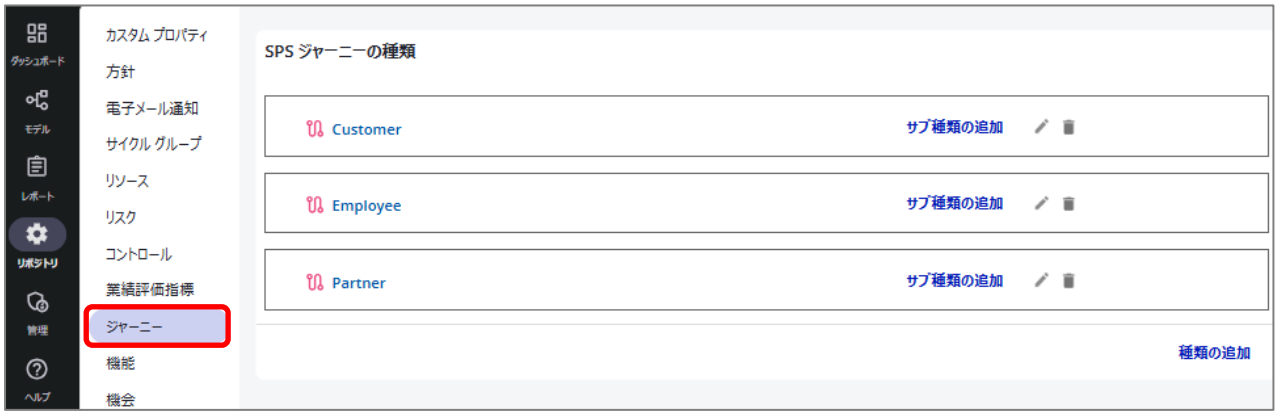
① 「ゴミ箱」アイコンをクリックします。

削除してよいかメッセージが出力されますので「削除」をクリックすると削除されます。
※削除後に元に戻すことはできませんのでご注意ください。



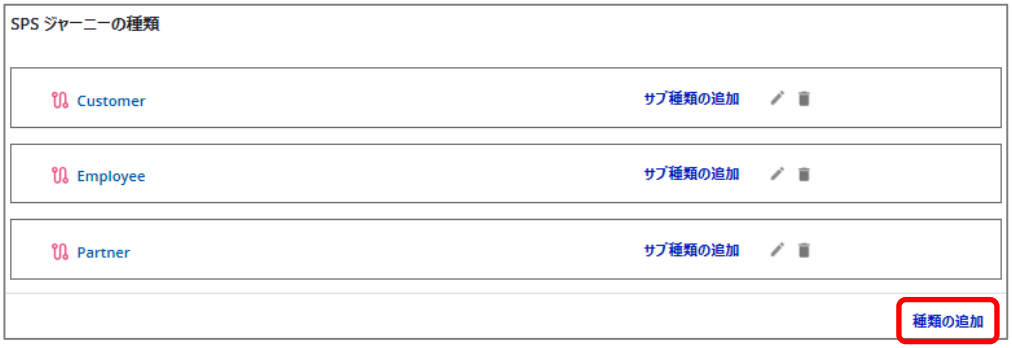
5 ジャーニーのカスタマイズ

5.1 ジャーニーの種類

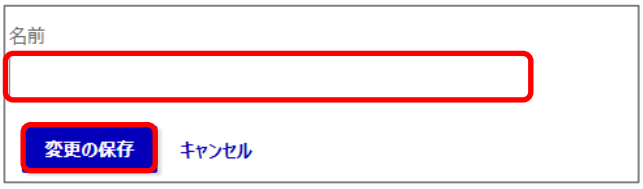


1） 種類の追加

① 「種類の追加」をクリックします。



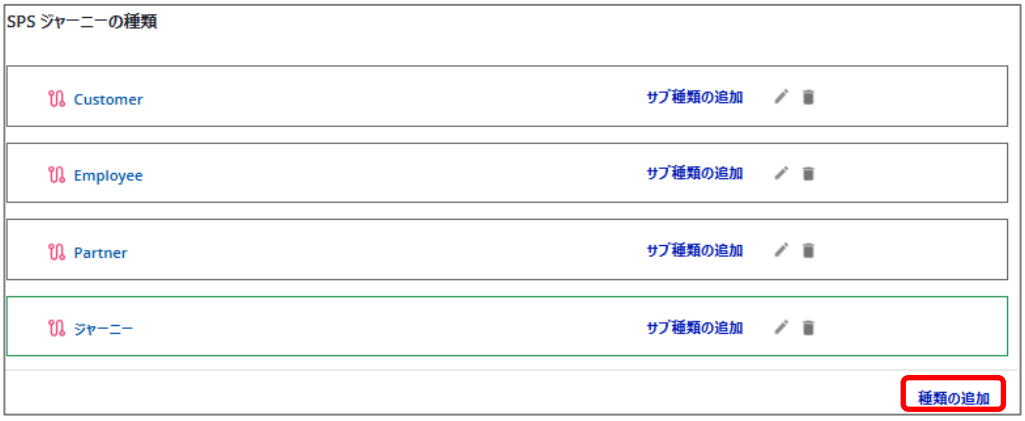
「名前」を入力し「変更の保存」をクリックします。



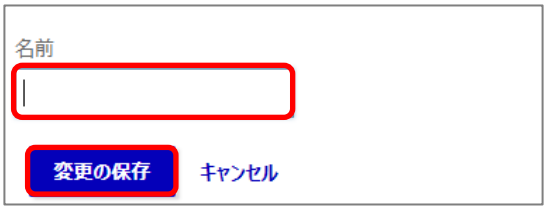
「ジャーニーの種類」が追加されます。

2)　サブ種類の追加

①　「サブ種類の追加」をクリックします。



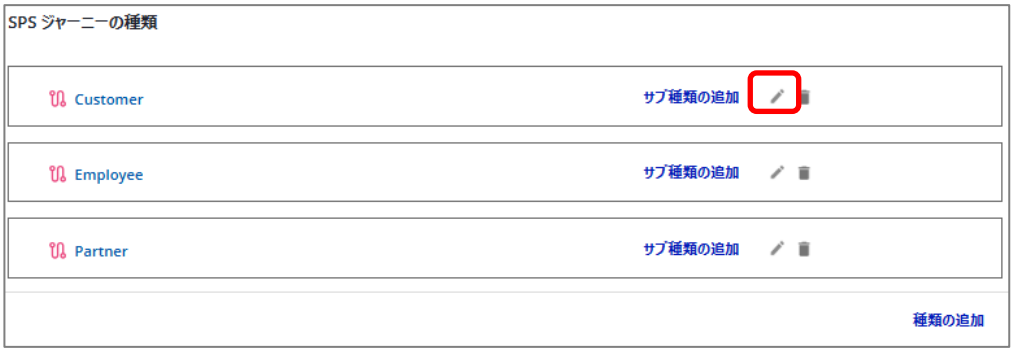
②　「名前」を入力し「変更の保存」をクリックします。



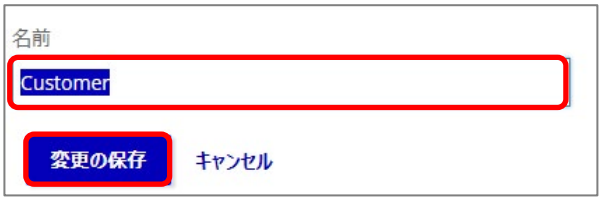
選択した「ジャーニーの種類」のサブ(子)に「サブ種類」が追加されます。

3)　編集

①　「鉛筆」アイコンをクリックします。

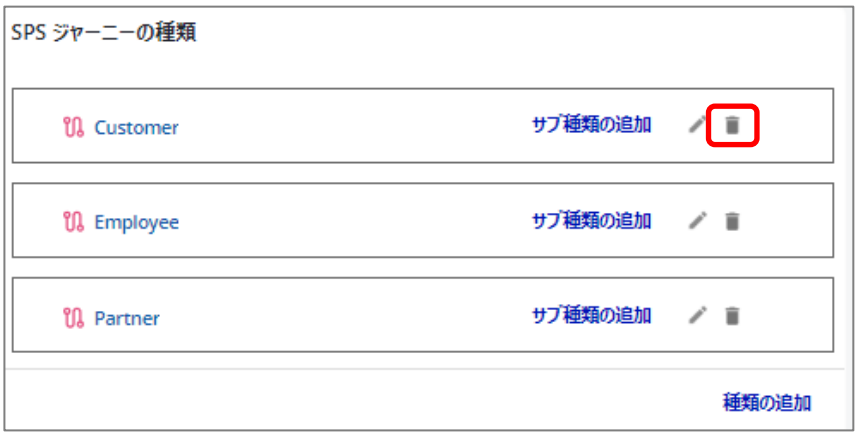


② 「名前」を変更し「変更の保存」をクリックすると変更内容が保存されます。

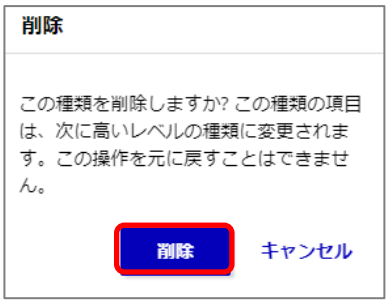


4） 削除

① 「ゴミ箱」アイコンをクリックします。

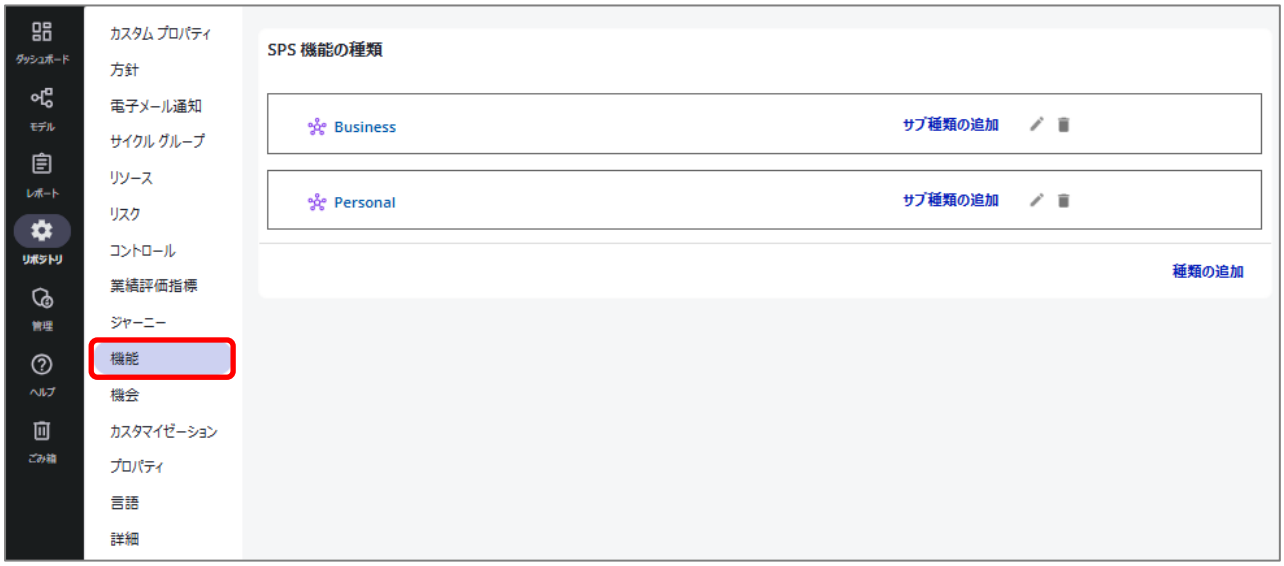


削除してよいかメッセージが出力されますので「削除」をクリックすると削除されます。
※削除後に元に戻すことはできませんのでご注意ください。



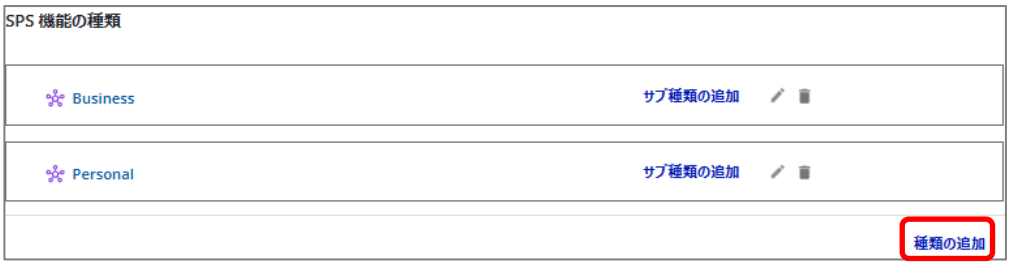
6 機能のカスタマイズ

6.1 機能の種類

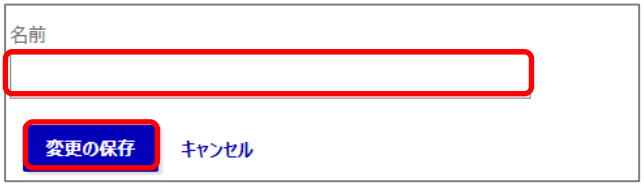


1） 種類の追加

① 「種類の追加」をクリックします。



② 「名前」を入力し「変更の保存」をクリックします。

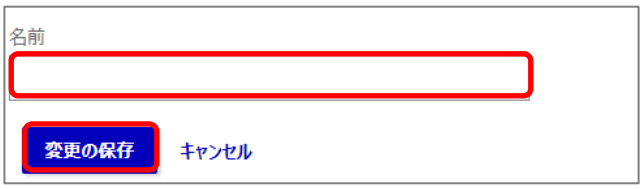


「機能の種類」が追加されます。

2)　サブ種類の追加

①　「サブ種類の追加」をクリックします。

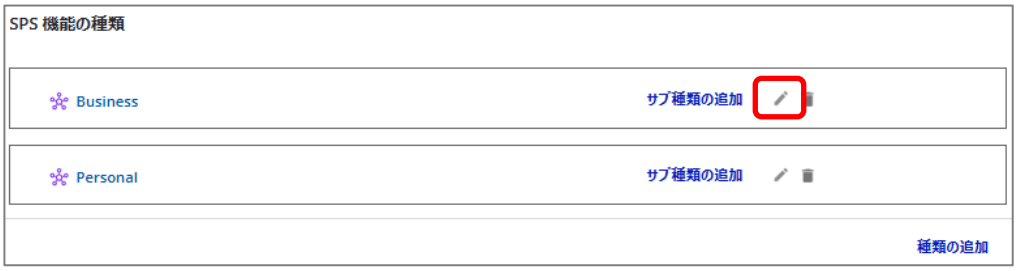
②　「名前」を入力し「変更の保存」をクリックします。



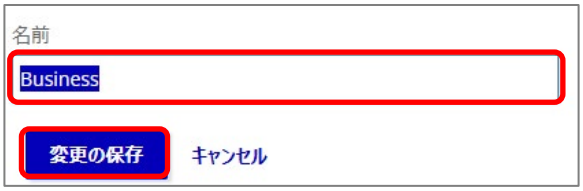
選択した「機能の種類」のサブ(子)に「サブ種類」が追加されます。

3)　編集

①　「鉛筆」アイコンをクリックします。

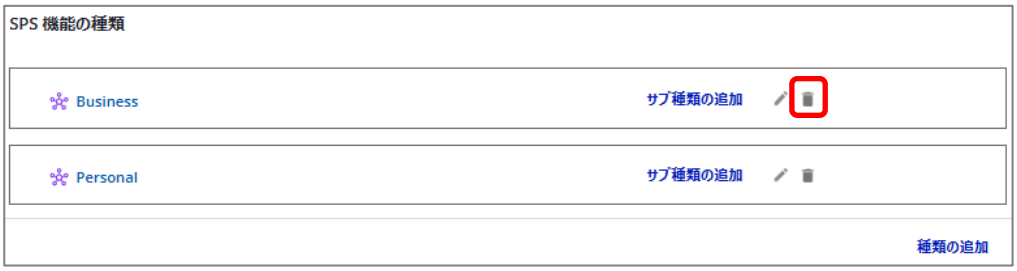


「名前」を変更し「変更の保存」をクリックすると変更内容が保存されます。

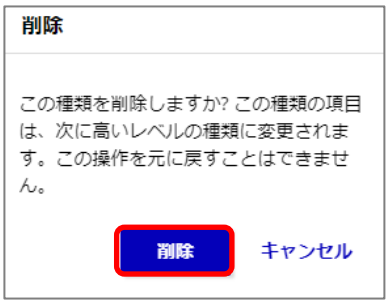


4） 削除

① 「ゴミ箱」アイコンをクリックします。

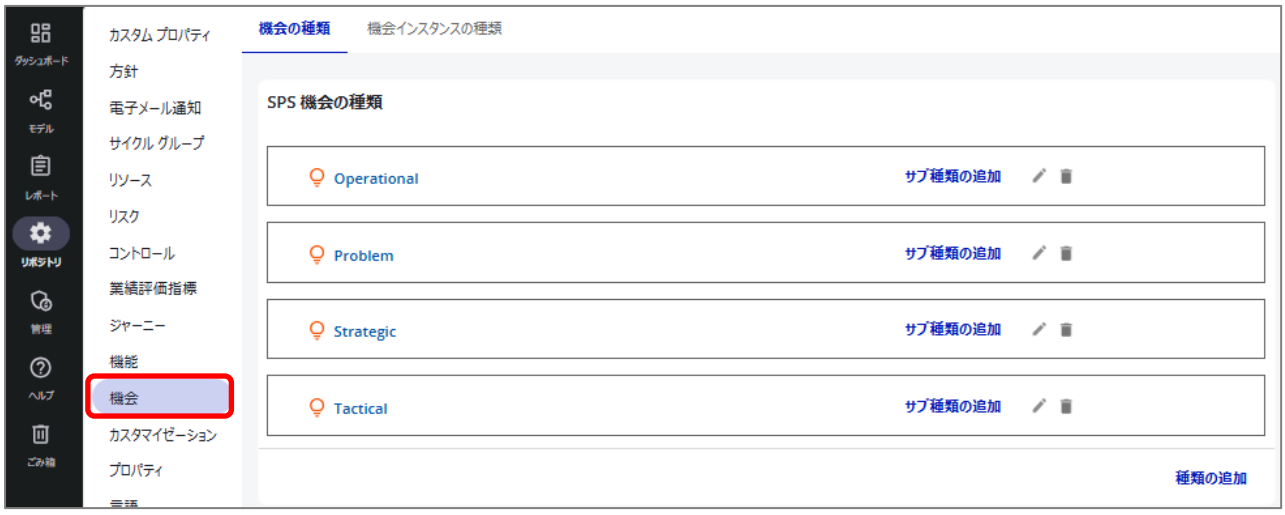


削除してよいかメッセージが出力されますので「削除」をクリックすると削除されます。
※削除後に元に戻すことはできませんのでご注意ください。



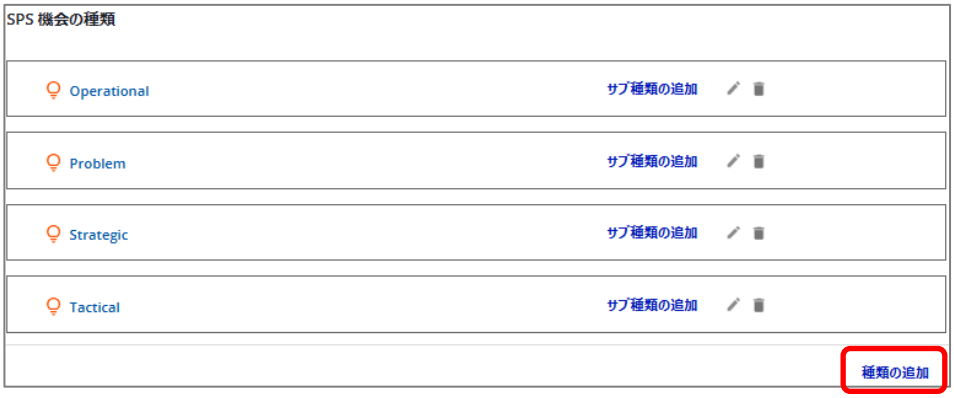
7 機会のカスタマイズ

7.1 機会の種類

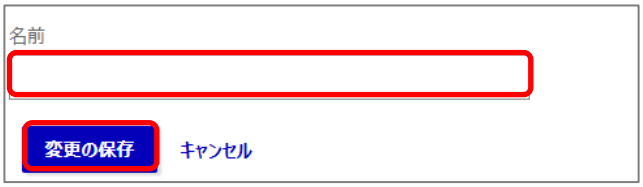


1） 種類の追加

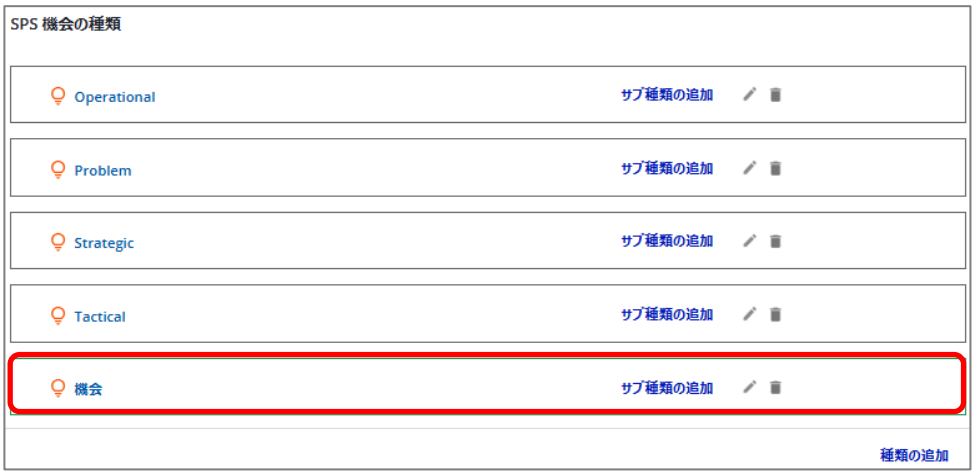
① 「種類の追加」をクリックします。



② 「名前」を入力し「変更の保存」をクリックします。

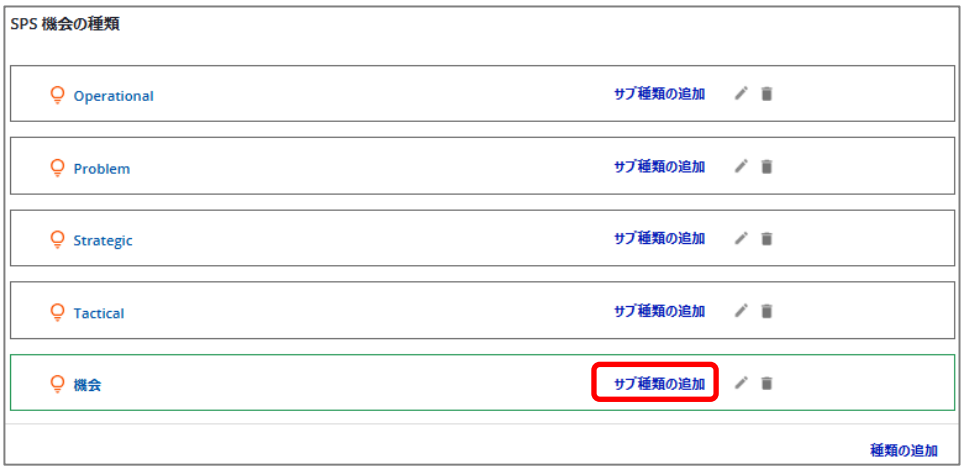


「機会の種類」が追加されます。

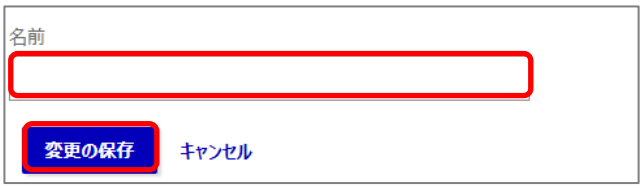


2） サブ種類の追加

① 「サブ種類の追加」をクリックします。



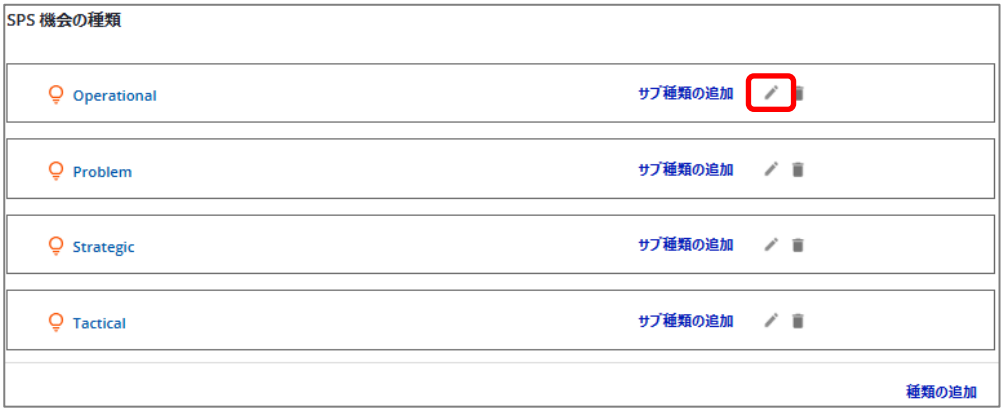
② 「名前」を入力し「変更の保存」をクリックします。



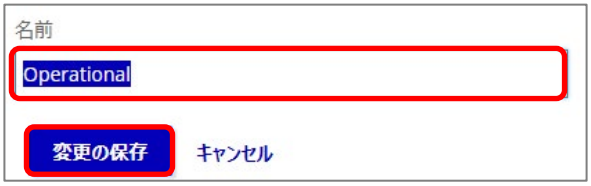
選択した「機会の種類」のサブ(子)に「サブ種類」が追加されます。

3) 編集

① 「鉛筆」アイコンをクリックします。

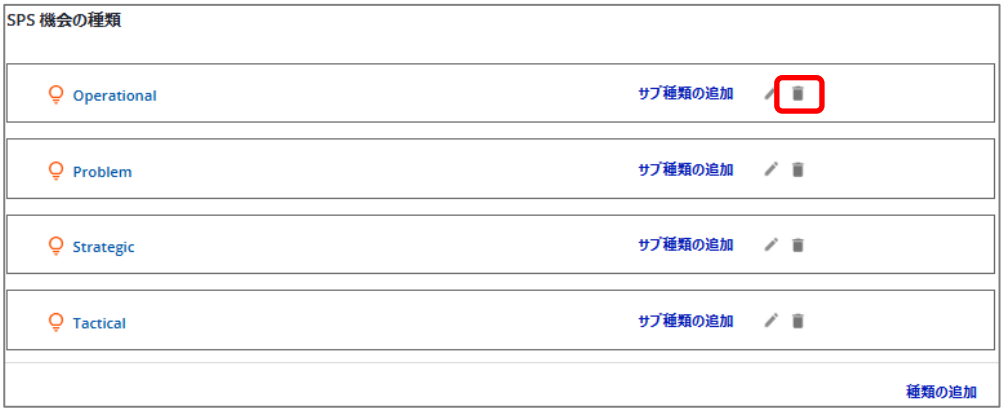


② 「名前」を変更し「変更の保存」をクリックすると変更内容が保存されます。

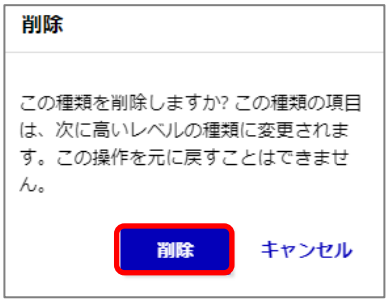


4） 削除

① 「ゴミ箱」アイコンをクリックします。



削除してよいかメッセージが出力されますので「削除」をクリックすると削除されます。
※削除後に元に戻すことはできませんのでご注意ください。



SPS
http://www.sunplanning.co.jp/